令和７年度実施状況調査報告書（スポーツ振興基金助成）

■活動概要

助成団体	特定非営利活動法人日本ワールドゲームズ協会
活動細目名	チーム派遣（選手強化）
事業名	第 12 回ワールドゲームズ・成都大会への日本選手団の派遣
助成金額	54,000,000 円

令和 7 年度スポーツ団体選手強化活動助成を受け、「The World Games 2025 CHENGDU」へ日本選手団を派遣した特定非営利活動法人日本ワールドゲームズ協会の調査を実施しました。The World Games は 4 年に 1 度、夏季オリンピック・パラリンピック大会の翌年に開催されるオリンピック・パラリンピックに採用されていない競技種目を実施種目とする国際総合競技大会です。The World Games は過去 11 回開催され、日本では 2001 年に秋田で開催されたことがあります。

本大会は、令和 7 年 8 月 7 日（木）から 8 月 17 日（日）までの 11 日間、中華人民共和国の四川省成都市で公式 32 競技とその他 2 競技の計 34 競技が実施されました。大会には、日本をはじめとする世界各国から約 5,000 名の選手・関係者が参加しました。

■助成の意義

本助成を活用することで、財政状況が厳しく選手の派遣を迷っていた競技団体の懸念を解消することができ、その結果、積極的に選手を派遣することができるようになったそうです。また、競技団体及び選手の財政負担が軽減されたことで、その分の経費を強化合宿等に充当できるようになり、各競技における競技力の強化・向上にも繋がったとのことでした。

■事業効果を高めるための取り組み

大会終了後、参加した選手・監督/コーチ、競技団体担当者にアンケート調査を実施し、次回大会の派遣時に活かしているそうです。併せて大会主催者の国際ワールドゲームズ協会に対し、日本ワールドゲームズ協会の活動報告やアンケート調査結果を踏まえた次回大会への改善案や要望等を提示しているとのことでした。

■所感

本大会は、国際総合競技大会ですが、高校のグラウンド等の既存の施設を最大限活用した形で開催され、また、地元の大学生が多数ボランティアとして参加するなど、開催コストを最小限に抑える工夫が随所に見られました。

調査期間では、武術や 2028 年のロサンゼルスオリンピック大会から採用される競技であるスカッシュなど、様々な競技で日本選手団の活躍を拝見しましたが、最も印象的だった場面はラクロス日本代表が中国代表に勝利した後、両チームの選手が肩を組み記念写真を撮影している場面

でした。国籍や人種に関わらずスポーツを通じた世界平和への寄与やオリンピックでは見ることができないスポーツの魅力と可能性を強く実感する大会へ、日本選手を派遣していると感じました。

本事業に参加した選手の今後のさらなる活躍と、各競技の競技力の向上及び裾野の拡大に助成金が活用されることを期待しています。

（令和７年８月６日～8月９日／8月 11 日～8月 14 日往査）

<table>
<tr><td colspan="2">（写真）ラクロス日本代表と中国代表の試合後の様子（左）
スカッシュの試合の様子（右）</td></tr>
<tr><td></td><td></td></tr>
</table>